日用必法鈔三編

中

□ 9
3456
7

島藏

口
3456
7

日用心法後三編中　目録

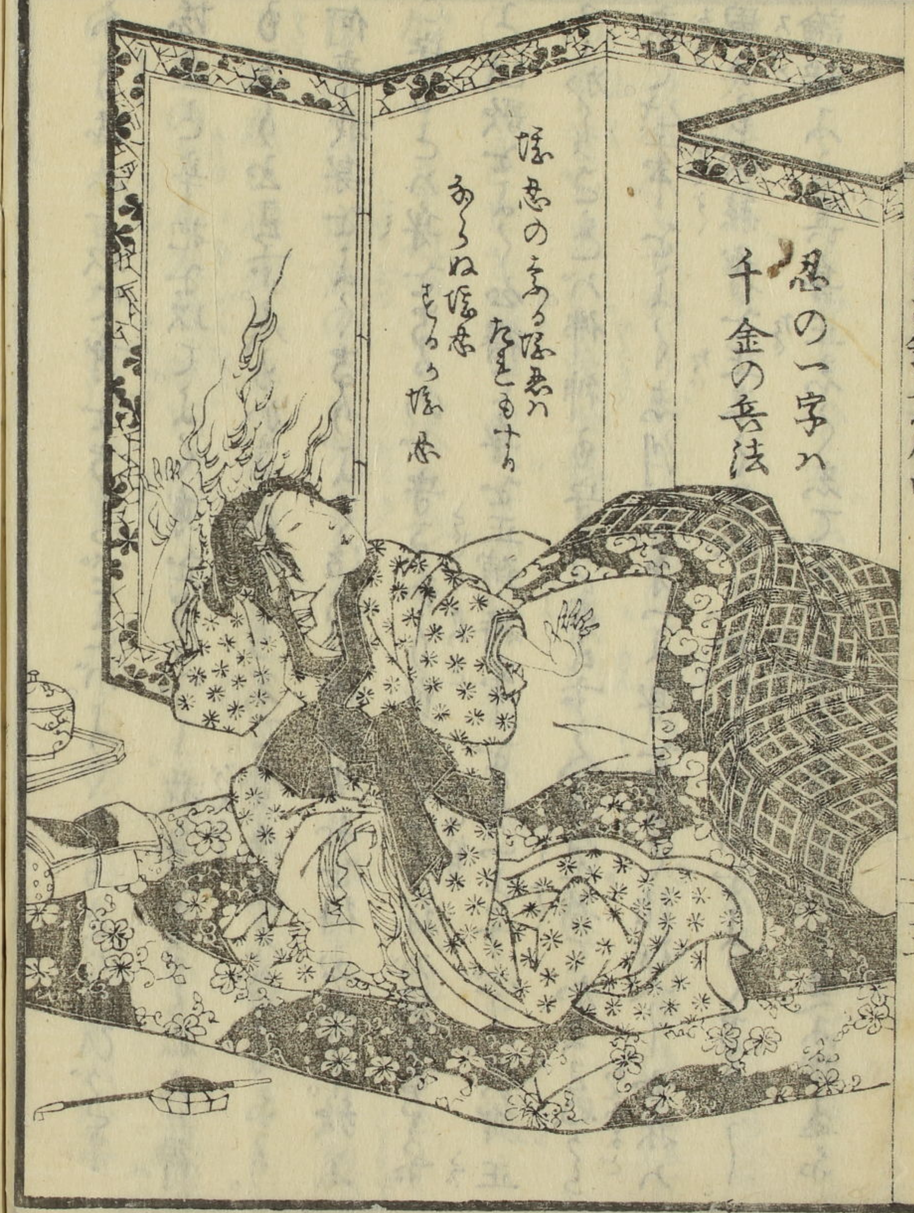
一株家督を持人出来皆株家督を持て居る事　二丁
一辛抱強く堪忍つよくふくとくの人に成就せぬ事　六丁
一堪忍をよく右之大徳をまとめる事　八丁
一下女家屋敷の証文をそつくりとらるゝ事　十丁
一身上がるくて何ごとらめと人の世話をありがちとらるゝ事　十六丁
一如意寶珠を見たるもふしぎ　十八丁
一二満二平上たがのもふしぎ　九一丁
一一文の銭を二ツ割て二軒の茶屋をおくるふし　九二丁
一利根ふとやめらまたくむ金の一ツを持てとらるゝ事　九六丁

一張謂亭主の落膽を憤りく詩を書てかべゑ張事
一金銀がのをも人の上とあり金銀の虫來る務行をせぬ事
一金銀を卑しがるむりみて金銀の虫來る務行をせぬ事
一金銀がのまゝで割合のよい株家督を求る事　三十三丁
一計頂の藝の上よる家のやまゝ黄金の光より出る事
一貧乏人ハ存下よらぬ損を致し。そもりを受る事
金持ハ何をおそくもやめくとりく事　四十丁
祝儀不祝儀一切の事皆仕舞ゑハ
金銀の所へところんぐくとりく事　四十二丁

㊀又世間の人を見るゑ株家督を持て居る人ハ至て希也。
株家督ゑ持まて居る人むりふり。株家督のふうげゑして。
ゆとり飯をたべる人むりふり。是等ゑ身上つぶす人くる
ハよけまた身緒を取立たるハ先祖孫うらこえてハまれ。
ぶーの仲間ふり恥入ぐーと思るべー。又株家督を持とりふ人ハ
御先祖よりのもづりを。段くと猶ーよけいゑする人の事也。
ふ流ハかぶかとくを持とりふ人ハ。先祖親よりのゆ
づりをよくもせぬ人ハ。かぶかとくを持とハいひがたー。株家督
ゑ持まて居る人くふり。かぶかとくのふうげでさむくふくひざる

くふく暮一日く人く也。去るつたまとりのべし。家を取たてる
御先祖方へ三日くらゐずゝかせいたの。五日位ずゝかせいぐの
とりの人く也。めりがたく思ひて敬ひ奉るべし。何卒は先祖方
の辛苦を思ひ一除出精まして家門を繁昌さすべし
○いづれ世を渡るゝ辛抱強く堪忍強くまくてハ渡りが
たく辛抱つよくまくてハ物ハ成就まぐたく堪忍つよくまくて
堪忍ハ一切成就の本也短氣ハ甚身の腹切刀。堪忍ハ福徳安心の本ふり。是をよくまるべし歌ふ
○一生のまり本尊誰ぞ仏と申す人もあり。と我身のまり本尊ハ文珠普賢ハまんとハらゝよみ也。実ハ堪忍仏

ふり堪忍を以て身をまもらざるとハいひがたし
堪忍と辛抱を以てよく身をまもるべし。我身をまもるな人ハ神
もまもりまらず。人もかまはぬろまて貧乏ふんざするふり。
何卒我身をよくまもりよく治めて福徳安心を得あべし。歌ふ
○守るとハ身をまもるのが守るあり身をまもるなり神ハ神もまもらず。
と計歌をよく心得て身を正鉾持奉を第一とすべし。其身正
しからざるときハ神も守りまらず人目ハ捨てかまはぬろ
あて。仕事をよく志して。第一つ身をよく治むべし。女ハ貞の一をよくまるべし。
男ハ尚雑身を正志くをべし。
論語ふも其身正志くして。天下平ろふりとなり。是ふ相違ふ



下女日のくれまえにめんどうに火をとるす
とて女房の煩ひ居るおどろの中へふうふう
とうちわびの火をおこし女房の水を
九やきまいらせたる所

一一切の福徳安心の本ハ身をよく脩るみちりとあるべし。
一切の事ハ恭恐つゝしまずして成就せず。福徳安心ハふきとあるべし歌ふ○恭恐のある恭恐ハ誰もするぬる恭恐するぬる恭恐ハ誰もするぬる恭恐するぬる恭恐ハ誰もするぬる恭恐するぬる

やふべからず。皆人この身の上よりの事一ツ一ツ悪念を廻らし。一ツ幸ふ悪すべし。短氣の甚身の腹切刀といふ事をよく考るべし。芸ごとの如くて悪念袋の緒の切るをも近もきらうすべし。若きうち世だ家身のやろぶるはと考るべし。すべて今迄の功も水の泡となり。福徳を失ひ家来けんぞくふ迄難儀をうけ。終りの道理のごとくなる事をよく考へて悪念を仕遂ぬふ旅ていよ〳〵悪をきらふこといいひがたし。芸能善悪をかゝりえず。るゝぬ悪をえ事ふすべし旅ふ

○綿ふもおやふのひもいえ事ありけり

○まけてのく〳〵をよこしとやふるふよ。智恵の力のつよきをこゝろ

○あの人ハ無慶ごうりもつよいとハ悪づよき人をいふなり

是等の旅をよく〳〵考へて悪念ふ大功徳ある事をよくきるべし

◎遺教経ふいふく。悪の徳たる事。持戒苦行も及ぶ事ハなし

ずとのり。此心ハ法浄ふ弐百五十戒。五百戒を持つかもどんなふん行苦行するより悪念きる方が功徳が深いといふ事也。

持戒苦行よりも勝るとハ此悪の功徳ふ及ぶ者ふし。

此事をよくきりて一ツ事ふ悪すべし。いづれの道ふも。悪念つよく。辛抱つよくふくていゝ。物事成就せず福徳ハふきたるべし

○女教訓草ふ人間の男女たゝ身終る迄。大切ふ慎をもつゝまるべきハ。
恥恐のつゝまりゝ切の事ふ身てもゝたゝ恐んで。我ゝふもうふせ
ず。是非たゝ人ふ随ふの仏也。先婆導といふ梵語てんぢくのおり
日本ふていふ恥恐玉といふ。恥恐玉ふ居玉ゝ恥恐するかいたしまへ
ゝり。いつゝまふまても。ゝふもうゆゝねやゝとのふ事おりゝ別
玉て女子ハ三従の道おりて。生ゝ父の従ふ行ふ事おりがたゝ。
幼ふて父母ふ随ひ。さかりふ夫とふ随ひ。老ていろふ随ひ
て。一生ゝひの従ふるゝぬ身の上ふ。たとゝゞ父母や主人がゝを
理を作せるゝ時。夫ハ法理といひたけゝどゝも。まゝ夫と恥恐
玉て。のいゝくゝとうけ申ゝ上て。是非たゝ随ふ事おり

ゝ贈き服立いひたきゝ事ゝをおりてゝいるゝぬゝを恥恐と
いふ。扨ふの恥恐いかるゝずゝ人の為ふずつゝまる所いかのゞ身
の為とおりゝ恥恐するゝ人ふ。人の為ふあゝらずゝ皆我身の為おり。
恥恐をよくする人ふ。福徳も安もおりて仏も聖人もゝ
ふうけて教つゝまふ。よく恥恐おゝて福徳を得ふべし。右ふうの
教つゝを用て。私の生ゝ玉ゝ付て気ゞ短い有ふ。其恥恐がどふも出来
ませぬといゝゝ。其短い気とふ。何尺何寸何ゝ程ゝ長せるゝゝ
といゝゝて。ゝ迫答ふこまりゝゝとぞ。気の短いといふハ畢竟
我侭おり。短気我侭ハ生ゝ玉ゝ付の病ひふゝんぞ。上下強弱の差別おりゝや。其有

わ藏の主君崇き山又或ハ行儀正鋪親族又ハ傍輩迎ゟ。頭立たる人の勇氣逞しく。正直ふ義を好ミ言葉少なく。歯ふ衣きせぬ程どのふ人ゟいふ短氣家作の挙動出来がたし。唯子の愛ゟおや母又ハ乳ひのもとかゝる伯母君愚なる友連抔のゐるほどりて。ゟ礼をゐし自下なる下部の類ゟ非俄非道家作のふるまいのり。是皆我意ゟりおこりたる事也。行ぞ生ミ分ゐゝやひとすぢ家財をかゝりえてかゝる行跡のるべゝ子歟ふたんきゐゟ生ミ分おやと。ゟゝのゟゟのゟゟ我身勝ほう簡しゝ計歌ふお遠ゐし。短氣ハ生分ゐり抔ゟのゟゟ海ほ勝ほの不届ゐり。生ミ分ふ上下強弱の差別のゝゝんや。急度改ゟへ。又猛悪をゝくすミむ。物事成就まて。福徳の来るとゟゟ咄ゟ或人の女房ふ品風の女地と病ひの床ふ打ふしけるが。さまで六ヶ敷事ふもゐらず抔女房とりゐミて製ゟおどろのごとくふ乱ミまゝくゝをかくすゟうゐりけミむ。今日や人ゟむすむせん。明日や取上させんとゐゝども。ゐふ任せだて。日ををごしけるが。甚家の下女ゐるゆふぐミふ。あんどうをともさんとて。火を持来りかの病人のまくらえまて火をつゝかき立るとて燈火の炎ゟを落し。病人の乱ミ髪ふ火ゟ付ゝかゞ。おどろきあとて。急ぎりをけうえと寸ミ乱ミ

髪ゐまで。真所は所より〳〵付て。中〳〵消〳〵うる事にはあらず。けぶる〳〵おき白ひ。家ふうちて。鼻持もあてがたし。病人おどろけたゝおきかつるべき氣力もあらく。唯かよはきまゝをのむ〳〵てかゝらをあでけるが。昔とてもけ〳〵うることゝはあらず。髪の毛は皆ぬけたり。尼法師をうるやうふあるけまだ。下女も矢たきなくて。唯泣ふうり外はあらりけ。たゞひまなる。薬相ふて左様なるべき筈也。家のまゝを始め家内の騒動大方あらず。夫婦人を呼んでこひ。親たを引ずりてこい。甚ふ差置ぬと大腹立の大さゝぎあり。病人昔を聞て重き枕をもげて。主下ふ向ひ申〳〵けるやうは。

旦那様我ゐまちを。ゆるしてすべき者もあるまし。かゝる薬あため〳〵もそくあき事ゐまた。さまたゞとて。彼下女をお叩き。せめいうた何の益もあらん又親信人をよびよせんだいをいひうけかまつらを。くるまあたり左自からの髪ふ惹ふのびるといふでもあるまし。病ふ依てかをかたちを粧ふふてもいらざる事也。ふ〳〵うさ〳〵。ふ〳〵うせむ。人まゐず添事あり。病氣全快近日をくらす内ふの。髪もまへぬべし。唯穏便ふ去てかまふの以後急度たしなめと陸おうり好べし。其上ふて。下宅兎ゐるべし。妻のおとゐ〳〵きふ主下もいかるをゐ〳〵めせめもてこさく事もせざりけり。下女が心の内

いかむとうろのりがとうろうんたと、を取ふ物るし。しも恩をむ。
深く忍ひて。神明佛陀ふ立願し。何卒清新造模のほ病
氣早く快全快遊むす事うふと。身命をなげうりて。仏神
ふ祈りけま。ただ。甚奇持みやりけん。次第よ快氣ふおも
むきと月日をかさ経て。平愈あるし。かど。手けろびたる髪
も。今かうるまきくまで。のびて。苗し。ふかろろざりしと
うや。是等の事ど社く考へて。感恐をおふべし。実ふもや
さしきふおり。其時ト女い十七才也。夫迎ひけト女。日ご暮と。
居経むりでかりをおて。仕事ハ吹しも出来ど朝ハくよつろ
まてねるいてもろらぞふ。経て居て。朝おこすむうふも大ひ

ふせまの母けたる事ま。て。大ごまりおりしが。け無お以後ハ
吹しも居経むりする事ふ。しし。良き血の母うふおて。急度夜
の四ツ迄仕事をいくし。朝い経よおこさまたる事ふ。昼夜
ふをそして。主人を大切よ忠ひかげひるこるく仕事を出
精いくし。前後左右ふ機を分て。夫婦の元の如うかいや
いやくしの届くやうよ仕へけまを。主人も後よハ奉公人とも
忠ぞ。家内の娘同前ふおひくしけるが。月日ふ関る居ぎ
まもの。七年の春をむうて。縫針の道もかしこく覚へ
神妙ふ物事やさしけまを。兄弟の人くもあまりやさ舗
よく働きけま。嬉よ其ひたきとのふ人くも多りけるこ

十下女が父母のむみもよめらりぬとわ。ろ〳〵ども。主人のはけ
事けまが定めてかまが身の行ふもふるべーとそよ
ふ遠ひおく。或時下女が両親をよびよせ。主人夫婦申さま
けるやうい其方娘事るふー頃の薦おをもるせー。はけの
言葉をかんじ。恩をまをまた。夫々奉公の仕方世ふ類ひま
まある恵ぞ我を尽ーかげひおこおく仕事をいるこー。又ふふ
かけてついへおきやうふせーおる。我等も大きふカを得て。今れ
身上も大かようくるのたり。其やうびとおて。家を養つ所つ
うまをとて。證文を二親よおふるりけまが。を収び限りおく。
天一も登る仙地にて。いりがこ個ふ快おが。扨二親が仏合おき

聟をおる孫けをた下女い一番用いまず。かねど近あり
がたき主人の情事悲を。受おうら。若や薦忽の人と連添
ふた。お角の情恩を無ふ世えもうりがこー。縁ふ出雲の神
ふ仁をべーとて。年三十るる近奉公をつとめけるが。又真家
の番頭よふい者あり。此家の白黒とてこく金銀をつける
ふよ。此人ふ身上をよく持事超ひおー。支ふまふ人の美
ぶみて此番頭の妻とおり。夫婦仲よく老て家富榮一子
孫繁昌老て。今の世近代くお續老て。江戸本町の内にて金
金吹町近辺にて。地面諸株金銀財宝を数ふ持て大家と

下女七年ぶりに大ひるまを
おとのさせしを主人すくかん
こんあて下さまたるを大息を
あらて大功をそるもつみ。
主人をそめるうびこゝして
家をまつ一ツ而。陰文をそへて
下女が支配とゝやる所

まむ。十人成とあり。門葬一の町人こそ。法恐をよくまもる。家の未孫也。芸法忍つよきこと。ちかる。大幸福を得たりこと。だ初稚の時より法恐をしりよく幸抱おて。大福徳を得べ〳〵とあり。此女房のよく法恐をまもる中く女のかとおてゐりがたき法恐あり。をべて女の髪形ちを大事と後〳〵大切とする者也。甚大切なる黒髪を切ておき中く〳〵簡りがたきなる也。一通りの女あらば打ち安うちやくおもりま〳〵。甚上よてゐんだいをいひうけ。此方が病気で居をも。聖ひふ髪よ穴を身やきころさえとまること。不届至極の女も、家焼人殺よりも重き大罪人甚分で差置がたし。親

詰人をようでこいと。いかりの大ひるる雨雨ありたぐひ希ある。不個法也若夫より怪く病ひ重りおれ。死ふをまんもむかりがこし。是ハ彼ふおりがこき法恐也。甚ざいかるべきをを。更よいかるおもおくびげがのやまちれ。誰も好そてする者もおし。親詰人をよびよせ。おんだいをいひかけたりた自からが髪がきくおのびるとのふよもなからず。そがらこと〳〵簡すまべよいうらゆふめんをおてかりてやさまとのよくいのふた甚いひがたき口上也。かうおる幸甚を生所の親連が聞たら。吟呪ひまをう。伏拝こ〳〵三拝九拝をるおらん。紳とやいと

ん仏とやいろん誠みのりがたき仏座あり。人くけ女房の事
を見ならべし。又悪を去てよろよろ女も大ひある徳を
いるしたり。ゝ女ほ主人のゝ悪を去てやさ主たゞなりがた
くおひて。夫分仏をいまかゝ居孫むりせど。朝もつりおこさ主て女り
又よりちりとも居孫むりせど。朝もつりおこさ主て女り
とおきてこまかゞ夫分朝廉おくと事あしおきてよい時分よ
い。毎度おきてもろろき。夜昼主人大事くとつとめと成
ふ。甚やうびと去て家宝一ケ所貴ひ。子孫繁昌せしへ。
ゝりがとき事也主人の悪を去てやさまてとをかんじて身
を慎ど。昼夜忠義をそしてよくつとめしへ女の徳分あり。

又悪を去と女房の徳ゝ仏てかぞへがたし。第一書物ふ
近かきのせらま。世間の人くよろめら主。又是を見聞去て。
悪をしり仕習ひ福徳安仏を得る人数多方とゝふ事ゝ去
まがとし。第二ふゝ女ふ。家のるりとおけて大方地面の
家内の始末をよくなし。家のるりとおけて大方地面の
七八ケ所もふつたるるべし。さもおくてゝ女ふ一ケ所の地
面ゝやらぬ者也。女房の悪を去一つより三方四方の大徳とおけ
たり。実ふ悪ゝ福徳のふきいる根本あり。是悪ゝ諸預
成就の本短気ゝ一切不成就の本あり。何卒人くけ事をよく
去ゝて悪を強く去て大福徳大安仏を得ふべし

拙如年ごろ懶惰の事をなげたり。こまよの
て懶惰の事よ分て。色ごと酒ー申度事ー成り。長け
まとも実ふ委業もろくー。四編を待べー
○何卒身をよく僧め家業を出精ーて。家を齊富貴繁
昌の人とあるべー。斯緒がろくてハなぞとよふと。人の情
世話よふりがち也。至てよろしくー。ハよも苦労をうけ。損をかけて。自然と人のあしとも
ある也。こまよふ心得てハなどもも貴をおり苦労をおても。斯緒
よくをべー。何ぞうの智芸ありとハいっとも。身を治ず。家を
齊へぞおてハ誠のよき人とハいひがたー。智恵も正智ふ

ハらず。邪智ふり。芸能もふハらず。放蕩とある。
又芸ゞ身を助くるかゝるよいとハいふ事ふまだ。お奥楽を
といふりのふハらずおて。芸能商賣ふり。琴三絃浄瑠
理おどりうたいまい鼓太鼓茶の湯立花おりきく商賣
ふり。人ふ頼まれ。毋とふ立ーて。家僕同前とある。実ふ至て
ハ。芸ゞ身を助るやどの不仕合といふがごとく。芸能を
楽むといふ趣ふハらずだ。芸能商賣ふり又身をよく治
め。家をよく齊へて。芸能おあらだ。甚芸能光りありて。
人も賞美ー。ふ立ーもふぐさを楽むといふべー。是極上
吉の人也正智正行の福人ふり相應よくふす。凡ハ発句

の一句も口ずさむ。又花の生ずう。茶の呑ずうも。去りたきうの也。又も生涯て不得ふるべらず。身緒をうく去て。一家親類一会中以下の人々に藝能ふるくた。家をよく齊へて土藏のかべをおとさぬやうふ去て。家来けんぞくをよくやしなひ。夫婦上〻吉の人ふり。外よ仁の安うの藝能ふりた。身を治めど家を齊へず去て。正智正行のよい人といひがたし。主人抹とハいひがたし。先ハ家来仲間也。金銀朱珍が身ふ相應ふるくてハ役よ立ぬと去ふべし。從僕不從僕ともふ。

まつさきふるの眞先へ入物也。甚い眞先へ入大切ふ物がふくてハ。迷惑千万以上ハあるべらず。釋尊も死苦ハ受るとも。貧苦ハ受べからずと作せつまたり。貧ハ諸道の妨げ也。四百四病の煩ひより。貧ほどつらきのハふし。貧ほどの大病大苦患ハふしとある。べし。こゝをよう〻て。仁ほどの身を慎を。家業を出精去て。金銀財宝を沢山よ持べし。金銀さへ沢山ふれば。不男でも。智者藝者が出入をさせてやさまと。ひやまかして頼をふ来る。家よ至てハ。金銀の光りハるき物也。又金銀がの主人とふり。金銀がふけまで。家来とふる。家よらつて。金銀ハるきりの也。

司よろしくて。知るときいたる事也。行ゐど小理屈をいふ人のでも。いひ妨げ争うがあるべからず。又悪る人がいふお金と云ふ字が人の主とかく。是も上下みなめが主人とある。とあるといひしが。是も主人とあり。金がある時」で。家来云ふようにて金ぶ悪る人とならず。道理あるべし欲ふ

○金銀が神や仏けよ主親と恐る」たりと。考へべからず

○人が只智恵や藝ふがおそる」孫ど。金ふ恐る金ふ持べし

是等の歌を以て。金銀のあるがいせいもあり。自由も楽をもたらすとまるべし

○拙なる時。大家の大金持の所へ行しよ主ど申さうや。

貴久如意宝珠をそろへ幸ありやといふらるゝ。ふよいあらき

居る。未ご後ふそろへ幸あらんとの事。

がし所持致したりそろへ幸あらんとの事。

ふ。何卒拝見致したし。

いへ。ある。たく。ふる。至て希ある物也。貴久が欲深くて。

卑智也ひ役よも立ぬ虚口斗りきかるゝ。ふ嘲の種よ

もあらんかと思ひて。そせ申す也。慎んで拝見の上と座捉

立て文庫ふ入れ。拙。跡よて。思ひけるやう。金翅鳥化去て如意

宝珠とるたいひ。又時輪聖王より外ふ持人あらじとのいよ

ふるふ今家伴のよ所持ふよとの孫我事也。我又其孫我事

を拜見すると。不思議の因縁也と。天へも登る心地して相待
呼ぶ亭を宝蔵の奥より三宝へ箱をのせ其上へ紗布を
かけ。うやく敷持出拙が前へ指置ば水を汲ひ口をそゝぎ
て拜見せらるゝよと。いふく有ふ。先ほを洗ひ口をそゝぎ
ふくらむ兎とうやく敷。ふくさを取て拜見するふた方二
如意宝珠ふたつぐらゐぞ有て。千両箱也亭主是ハ千両箱ぞ。
金銀ぞくらゐ。拙者も二両や三両ハ所持致したり三百や三百
の小きびふこまり一本ぬいて。多い吹ぬいて巻も角も。
金銀ぞ相違ぬし。仕方ぞもひる。金銀ぬりぶふ。如意宝珠
ぬりと。人をたぶかる偽り者。返答ぞようで。了簡ぬりいか

ふく。と結かく迄でいふ。其内大びよ知ていふく。貴公
ハ吹く智恵分別もぬるかと。金銀の外ぞ如意宝珠ぬし
鬼角一の宝とハ。何ぞよの事ぞらぞ。金銀を世
たるふよりでぬり。其訳かたらんよりくさけ。如意宝珠
のつゞだよの迄で。一切心の侭ぬり。先ぬき家ぞ住たい
と思つた。金銀さへの迄で。亦ぬき出来る。心の侭ぬり。よい名物
がたべさい。何でも望ぞ次第ぬり。如意珠ぬりうまい物の上菓子でも。ようかん
でも。ぬるべいでも。書でも。何でもかでも。如意珠ぬり。よい道具

がやしい。全很さ〳〵の事で亜ふ求めく〳〵る公の侭あり。又吾光寺〳〵糸りたい。京大坂が足物彼〳〵たい。仔勢や熊野〳〵糸詣が彼〳〵たいと思〳〵で亜ふ出かけく〳〵る。若〳〵豆がよろけ事だ。通〳〵駕籠よてゆく豆のよいもかまいあ〳〵。おかごふのりてさうけ事と出うけ。万事自由自在そろの侭あり

○京傳が戯作問答ふ千里の道を行も金銭がの事だ馬かご船の自由たりて安〳〵もくことび事ど。是金銭の威光也鯉ふのりて波を走り雲ふのりて空を飛仙術よりも。ヤ銭術が早道ありそこで。銭ヤいまて。腰よさげる物を早道とのふ因

緑いろ是かくのごと〳〵とのり。こ是かるロふ事ど。道理かくのごと〳〵。合点仕安きなとへ〳〵あり。又小き銭がふけ事だ。銭草の観音様〳〵も開帳糸りも出来がと〳〵。四文のの。のぞきも八丈のを目が祖も名る事ありがたし。世ふ小き銭のふいの首のふいよりもふとりふり又病気の事だ。よい医者を頼ム高直ふ薬をのんで。公の侭ふ療治をする又欠抱人も数人も分置て大切よする。又貧乏ふ事だ。よい医者も頼む事出来がこと。又抱もゆき届きがたし。死また生もの。天道任せよ志ておろ祖たふ祖ふ貧乏のかふと迚又金很さ〳〵の事だ。よい医者を頼ム。よい欠抱人を頼ム。

如意寶珠を
見せるとて
千両箱を
ぜゝこ

よい術祷者を頼そて。病氣平愈長命富貴を祈る也。
又かいぐすりみてよけまさだ。三脳ふみりた。真珠みりた。
熊の膽比黄人参みりた。ホーい薬が亜ま求めるまる。其
外何ずうの薬も。至次求めるまぬ物一つもなし。日本の妙薬ハおろ。唐天竺の妙薬熟病川の魁
でもその侭ホ求めるまる又金銀さへ沢山よいまだ。日本の
名物おおろ。唐天竺ちくんだいぎりす。おろおや等の。名
物。珍舎奇数等返も自由自在ま求めるまる是金銀さへ
沢山ふりまた。高位高官知行ふもあるまた一切万物
金銀ホて調ぬ物一つもみ〜心の欲する所ま隨ま。是を如意

宝珠とらまふ何ぞ間遠ひらんや。又ちやんころ〜えみく
ていちやんころのまよい家よもまた。よい着物もきろ
まだ。うまいおもたべらまだ。よい衣食住ハ勿置やきいも
も。豆腐のからも。心の侭ホ求めがまし是を如意とらふ。
金銀の一つだふりまた。一切万物ホーい物が求めるまる。また
立花茶の湯謡ひ舞琴三味線等の技芸も心の侭ま出
来るみり。芸等のみぐさでも。金銀ぶんくてハ出来ぬ事也。
又上髪でも。おたふくでも。二満三平でも。二満とハ両のふうの
とハひたいとへそとくちびるとたいらうるをらま。彩造でも。かむろでも。昼三でも。若衆
でも。何でもかでも心の侭也。此方から頼まずとも向ふより。

どうよう
同用がいるゆゑ紙りませうと。
さきざき
先方より持てえつる。何の事も公の役也。何でもいゝ目が
出ぬ。何と金銀ハ如意宝珠と同様ハいるべからざる川柳が
発句ぶんも。何たくさんある。ゆきのそぐ
。やきぐすり伝渡から出るがちきく。是等の口号
みても全銀の如意宝珠たる事をよくわきまへるべし。何ぞ不男
でも。幸ひでも金銀さへあれば。すきな女がよりよい小野
小町が妹をえるやうなもの。うつくしい女を数人もかこうで置
て楽むより。又傾城が買たけをたゞ大門をうつてる前
のすきなのを数人も買て楽むより金銀さへあれば

の役ゆゑ。又何ぞよい男でも。若くても。芸妓一文のよう
ふくてハ。切見世へも揚る事ハ出来がたし。況や大見世へハ。
猶さ。のぞく事もまりがたし。まして其外の女郎ハ身ぶる
いを出てきろよゆゑ。若近分よりハ。座敷等ハかりら
ぬ。むごうふさたて。つまらぬ身とある。又事よりハてハ
多切をよこせと。孫だりごと。ゆすり言をいゑまて。外聞をわるしけれ
ねゆゑ。若よせつけたら。地ごくへ落たも同前ゆゑ。いづれの
女もけ事をよく吉河て。初めうち近所へも参ぬ也。実ふ
至てハ貧乏ゆゑ不自由ある世ふ捨うと思ふてこゝのハるゝ

べし。四百四病の煩ひより。貪不どつゝき者ハふるしといふ事をよくわるべし。貴公ゑどと全銀の尊き事をわくらず。自由自在の如意宝珠ゑる事をわくらず。夫ゑゑ不如意貧乏也大事を大事と云らず。宝を宝と云らずハ有よいつでも不の字ハもゑ玉ぬるり。何事ハ後ハ大事を大事と云り宝を宝と知ハて。親主人の如く大切ゑわて。一疹も虚ゑいきつゑべうらど。初めの欲の通りゑをべし。金銀ハ神や仏よ主親と恐玉そるときゑべからず。旅ゑど。出て一文の銭を二ツゑる茶をよく呑うゑすべし。もつ又ゑまり云ふいけ俚者ハ右ゑんがうとえつる右様の心持でゑくて。金銀ハ持ぬゑり。

糸玉ハ又。世界の益ゑもふり悪悪善根の事ゑうだおしげゑくいさぎよくきゑべし。何事も時所ふりの用てもうろゑべし。暗いたかりも役よ立ず。行事もかりも役よ立ず。行事も中道の身分相応の所を通る玉し。糸玉ハ二分一ひかつて事を行ふべし。欲ゑ。金銀をもつゝいゑまるとありと知るべし。欲ゑ。金銀をもひ捨るもたるけ者。くるしめたるゑりの。歌よてよく考ふべし。又芸狂よ自由自在の。大切ゑ。金銀ゑ人様の物を変玉てやしがるべうらど。たとひたくさん事のりため。何たゑ黄ろねをべし。ハ方ゑ入用ゑまゝたえ

捨よも人用也やうて少しもやしづかるべうらむ。唯身を治め心を正直よ。家業を出精志て自然天然の福徳を求めよ。べし〳〵。無理せず無理いうまず。道理至極の所を通るべし〳〵。是を誠のよい人とらくよ天縁を得て安心おくうす人ありよ。邪智邪欲邪分別の愚人たハ日夜ひくせ〳〵する。金銀ハ少しも持事ハありがたし〳〵。是ハ仏祖とらくよ仏聖人の教へよ背きて。無理非道の金銀をりみけたるおうにてあり。無理非道ハ仏神聖人がきつひおきそうひも也。仏祖とらくよ。損耗の道あるおうにてあり。ふきそうひも又ふしだらなる方あらうすや。皆人ぶ福徳を好そおぶら。甚福徳の来る道ハ

倹約世すぎ志て福ひの来る道をかりを約めよ仏祖福徳いたりすぎて。笑ひむかりよ来るおり。たとへ人の来る事を頼ひおぶら門を閉ていまざるがごとし〳〵。てんとうの慈悲也福徳ハおき善おんの事をよう〳〵もるべし〳〵。是さへ〳〵よく志まだ外の事ハ自然と君子の道よ叶ふおり。若又無理非道を志て。たくさる金銀ハ。亜ふおくまる又師よて大学おうが来るとまるべし〳〵。大学よいらく。貧悴て入時ハ。亦悴て出とひりけ仏ハ貧を悩志て。取去ハ又無理よ取まるとらくよ本也ほよ無理を志て取つ取まつりまる赤よ後よハ争ひを起志て乱よ及ぶとらくよ事

あり。けだし篤実の君子は。富貴ある事なり。
安理を去てかけ去て。あらざる也。又安理ゟ富貴ハ求まて
預こぬ也。愚者小人ハ安理を去ても富貴ゟあらんとす。至
てハ中うし。未ゟ大損とある。全根ハ山を去たり。安理を去
てハ。変去て持ぬといふ事をよく〳〵あるべし。けだし全根を
持たいと思ふ人〳〵ハ。先ハ身をよく〳〵治めむを正直ゟ去て。家
業を出精し。旦那事も奢りなく。唯順道
の行ひをすべし。右様ゟ致し候ハ。自然と
出来る事。疑ひなし。ゟ智の人ハあやぶみき事を去
て。全根をりゟけんとする故ゟ。いつても困遠ひが出来て大損
をするなり。いよ〳〵貧乏とあり。又ハ五所〳〵引迯んで。未ゟ裏店へ引こそ。
毒多方也。何卒ハ教へを聞て無理せず。安理いよ〳〵順道
の行ひを去て。福徳を得ゟあるべし。是が近道上分別ハ外ゟ
福徳の来る道あらと。くどくもかゝそくも。
示しあり。大家全持の教へハ又格別也。無理非道山事をも
る者ハ全根ハ持ぬといふ事。今更よく〳〵去たり。又全根
ハ如意宝珠ゟ同遠あらと。身をよく治め。家業を出精して。
全根を沢山ゟ拵へて。世の中を安心ゟ送るべし。こゝ〳〵ぞ誠ゟ
めでたき人といふべし。ハ事を〳〵深く考へ。

○如意宝珠の事ハ大論五十九巻丁ヲ委ク長ケ広ク宝
ヲ略ス奇妙不思儀の功能ある玉なり。仏ハ預ク所の
たからを生ずるなり。又天台大師法花経提婆品の註
ニ七種の如意宝珠の事を釈セリ。是ハ深秘ニて。
容易ニ云ガたし。ここまよりてある。さて。又授記品
第八の註ニ。金珠ハ万法系湍の体也。我等が一心の全体
を金珠ニたとへたり。此一心の全珠を悪くつくる。悪業
をかい取て悪趣ニ落るなり。又よくつくる。善根功徳をか
い取て。成仏さするなりと云リ又安見宝珠ともいふ。真
珠ハ貝の玉。龍珠ハ頷ニあり。蛇珠ハ口ニあり。奥珠ハ眼
ニあり。鮫珠ハ皮ニあり。驚珠ハ足ニあり。蚌珠ハ腹ニ
あるなり。此外地蔵ガ左の手の持ル如意宝珠の変
化ニ大村真珠あり。是ニ付て奇妙不思儀の事ハ
四編ニ待べし

○ある人相見がいふ。大利根者とハめくら。たくみ立花
者うきく。琴ニ味線浄瑠理欲俳諧等ニ上ずみする
ハ。全ク眼の一ツニ持者ハ大智者とある
近道也全ク沢山ニ眼の二ツニ持者ハ馬鹿でも利根ふえ
ニよく通るニてもあるぞ。奉がよくそ。

どのやうな智恵能でも。全很さうの事で。かうだ中が智恵のやうなえる。悪のやうな方でも。大かんおや
く持のでいお面でも。持糸全のよめみまけて居る。だァ乍
もむこ灰も。蛭ふ塩うみたやうふ例てきげんをとるていお面よめよ話仕をおて飯をたべさせる。よめがらよみれお
まへの様ふ氣のよいでいお面ふいそよふといつだ。ていと全
ふいそよふといつて。若持糸全がふい位ふらだァ乍很の感光ひどい物ふり。毎日のいひ事小言也。又むこのひたいよみ。角が五六本生へ灰ん大かんおやく持ふおて居る馬ふり。近所へも当分が

たしよめの中く辛抱も法恐も出来がてし。事ふ例たらふ不縁とふらんもおまがてし。ころや恐ろしや。鬼なくアふ鬼むこ也。何ぞ其やうふ他者のろふ口ふり　又全很がふけまを智者でも馬鹿みえる。学者でも文盲ふえる。人が用ひぬ例よ事が通らぬ。又何ぞ機が大きくてもいつ例よおとる。悪くてもきくとふくてもいつ例よ出来る。いろ〳〵ふ所で咄ふ出来る。いやまかろこふまでことめ〳〵ふ〳〵いやおいこふ迄る。ふいまかろこふまでことめ〳〵ふ〳〵いやおいこふ迄る。人が下よおうね。上へのげる。何でもかでも全のいる者でも。人が下よおうね。上へのげる。何でもかでも全のいる例ふ叶ふ叶ぬ。一切の義務をよく者ても。全很を沢山ふ持て

居る人ゆゑみ称美せぬ。こま一よより川て一切の蓼絲をよくまて。人よゆめらまんとするより。金銀の一つを持て。利根発明の人とゆるべし。老大智若とゆめらる。道道也とひしゃが子万ふり。丈おやから。一切の人が後生丈。事一ゐ孫金ゆしや。死んでも命のゆる事也。金銀さへ一ゐのまだや。せた男もふとくゑへる。不男でもよい男よゑへる。ゆろふ。ゆ合からゐる時ゐ大黒様とゑへる。万事ゐ事ゐ義でも愚純でも智者藝者ゐ虫入をさせてやさまとをやて頼ゑゐ来る。何事も自由自在也。金銀の威光ゐ大

ひふる者也。こまふよ川てかゐらず辛抱を致し。家業を出精まて。身ゐ相應ゐ金銀を持べし。おくて叶ゑぬ者也。何事ゐも眞先へ入物也。平生ゐ儉約を致し。益ゐ事ゐまゐず。又大事ゐ入用よゐおーげおく事よべし。唯たゐる事をかりを志川て。きゑべき時ゑ事ゑねも本意ゐき事也。死孫を置て行事も考へ。右川て。ゐまり強欲をかゑく留ゐず。我死んご跡ゐふるゐまがゑーとゐゐ事も私得置べし。唯子孫ゐ為ゐうり。我さ孫をゐらね善事がゐまを思ゐて。無理ゐ欲をまゑさう。我さ孫をゐらね善事がゐまをたゐとがるゐ。ゐまりよゐ

世人結交須黄金黄金不多交不深
縦令然諾暫相許終是悠々行路心

張謂宿屋の
てい主あるじが不人情を
いきどふりてる
詩を彫りかべへ
張舟て別るる
ところ

智者といひがたし。いづを中道のよい所を通るべし。
君子たる者は一方よかたよるべからず。前後左右を見てわど
よき所を行くべし。いづれの道よも常よ始末を為て。
金銀を沢山よ持べし身よ寸銭よ持ず存じよらざ
人よ無未ようまる事なり。唐詩選七言絶句よ長安主
人の壁よ題す張謂
世人結交須黄金黄金不多交不深縦令然諾重相許終
是悠々行路心は詩の沢よ長謂とよ学者が此世せんが
為よ長安の都よ来る張謂が金貧布が重く見へ一ト方よ
旅籠の主人が孫んごろよもてふーたり張謂よ丈章を

上へ差上て出せんと思ひしみ存知の外塩梅がうるくて。
落第ゐて出世を仕損じたり。此方よ張謂も金銀を持
ふくゐて。金貧布がかろくふりーかた。初め頼母鋪いひー
主人も後よいらひがろくふ川て早く出てゆけがー
といふねだかりの仕方也。此方よ亭主よのてつけて。此詩を
作り。旅籠やのかべよ題つけ置て別るくふり。此詩の心よ世
の中の交りをするよ黄金が多くふけまが交りも深くふい。
黄金がふくふると。終よ世話ゐてくるるけまた。
の旅よてもらぬ人よ逢ふよもらぬ故して居るとの

詩也。ふるい唐人も日本人も人情は同じ事とえたり。唐でも黄金ぶあけまだ」だ。廉未ふさまる事鮮ひふ〳〵。日本人は猶落時ふ若て。黄金ぶあけまだこふみぢんふさまるとまるべ〳〵。歌ふ○流浪若て世を過かぬるそのときは近〳〵き人もまざかるふりと是ふお遠ふ〳〵用ひるべ〳〵唐土ふても学文のよい者は文章をかいて　天子へ差上御上の御意ふ叶へだ法取上がひ例て。よい役義を作せ身らく事也。若法取上がふき時は落第とひふて役義の作せ身ふ〳〵

又杜甫が詩ふいふく。途窮て返て俗眼ふ白遭とひり此詩の心は。学文のよい智者でも。貧乏すまだ。何もあらぬ俗人ふ白眼まさ。廉未ふさまるとひふ事也又高適が詩ふ君不見今人交誇黄金用尽ず還疎索とひ詩のこは。君見ずや今時の人は。十人が九人迄は。水くさい黄金のひる内ばけんをとり。色ひらい敬ひかけまだ黄金を用ひそ〳〵ふくるると還疎を索とひふ事也又高適が詩ふ君と世の中の落時を憤りて俺りたる詩也。唐人も日本人もかふる事ふ〳〵。又色くと世間を勘へるふ貧乏人とひ深く交りがそ〳〵。深く交ると亜ふかりたがるかせまでよこさず又いろくさまぐるふんだい申をかけて基ざこまり入事也。又福人と交ふまで先損

ふんだいをぶりかける。氣をひふし。ふしぶし自然と交りハ深くふる道理ふり。又貧乏人と
ハ自然と交りも落くふる善ふり。是ハ人情が落いとてハ
まりうらふみべからず。天地自然の道理也。人くに仕事を
よく出てあまり落情くと、かいふらふべうらず。既ふ天
地の御仕もかくのごとし。詩經ふいふく。皇天親ふし唯善
ふくをすとのまた。天の思召も。人の善惡ふよりて直ふ
禍福を變じをふ。善人も惡をすまた直ふ災ひをふて。惡人
も善をすまた直ふ幸ひをふくをふ禍福の變化する事。
まかしをふりもそれ。いろんや人情ハ甚善とあるべし。

こまふよりて。形ひをよくあらて。大金持とふりて。一切の
人と交りをよくすべし。行ひふよりて善惡のうつりか
ハる事。天の御裁許也。善惡の行ひふよりて。福德も人
情もうつりかハる事。今ふ始まりたる事ふあらず。昔
しかくのごとし。此事をよく右りて身をよく脩め。家
業を出精あらて。大金持とふりて東西南北と親子兄弟の
交りをはすべし。粉引欲ふも。あまの賤布ふ金さへもと
む。西も東も皆親子とふり是ふ名遠ふし。身をよくお
さめ家業出精あらて。大金持ふふるべし。左家ぶさりふあらて
人中の大善人ふり。現世後生共ふ大安心大福德を得るの

道ふり。是を正智正見の人といふ。何ぞ学者藝者のみならんや。

○又いかふ金銀を持ずよいといつてだとて無理非道をすべし。山事をおこしたためる金銀ハふきよりもするかよおとるとまるべし。無理非道ハ大損大ふんぎ大馬鹿の道也。変ておすべうらぞ。無理をいひ無理をするハ大損といふ事を深くまるべし。こまをよくおもふ悪事ハ出来ぬおふりまた君子の道ハ進一唯家業を出精おごりをやめて清浄ある金銀を持べし。金銀ハ身をこらし骨をおりて。そろくと功をつくて持べし。よそほど骨をおり孫で出来がたし。昼夜かせぎまくりて。金銀を持べし。身分相應ハ金銀がふけまじ。よい男も不男ハ見へつる。よい女も醜女ハ見へつる。藝の上ハもやまふ見へつる。よい事をおこてもうまくゑへつる。智者も愚者ハ見へつる。学者も文盲ハ見へつる。人も教へうけぬ読ハいハ。貧すまじ。富貴ハまじ。利根ふふるといハハ間違ひふし。又馬やせて毛長く人貧よおこて智短しといふも実の事也又金銀ぶふけまじ。人のまやとふる。金銀が人のかをとふる。何でも金銀の一ツを持べし。金銀が人のまがく幸もひろ。まけ玄事も勝とふる事ひり。金銀が人の命も助け。人の首をつ

を一切の幸ふ勝を得る。一切の幸ふ徳をする。株家督の賣かふも。金很が沢山よりはまむ。割合のよい株をかい。よい役ふのりつく。扶持切米も割合よりか。余斗ふ取る其上人の上ふ立のふ幸がよく通る。利根ふ見つる。金很がはまむ伝ひどの徳用う右まがくし。又持系金のむこ探も身かふ相應の株かとくふよりつく幸あり。万事黄金を以て。出世する世の中ふり。黄金がふくてもよい出来がたし。是は今始りたる幸ふはらず。昔しよりかくのごとし。又ふ人情ふはらず。是わふり又金很がふけまむよい株かとくを買幸も出来ぬ。

又よい所へよめふもむとふも行幸ふりがくし。是ハはたりまゝ也。万事ふ世の道を失ふ。貪ハ諸道の妨げふ相遠ふし。是ハ黄金がふくても。よい株かとくがまふのりますう黄金がふくても身分ふ不ふ應の所へよめやむことふ面けますう。當時御大名旗本屋さへ。よめ入むこへふふハ。持系金がふくてハ。身分ふ相應の所へも往がくしやうんや身ふ不ふ應の所へハ猶くも面けね筈也。是ハ伝ふも欲がふかくて。持系金を至むふはらず。持系金を持て来るやどの徳のはる人でふくてハ。家ハ治りがたし。持系金を持てくる幸の。出来ぬ人ハ。親も貧乏ふ右て来

る人もそうきのあき人あり。家ハ治りがたし。持条全を持て来る人ハ。何とぶく身も重く仕所ぞふとりへの居る人也。此ハ持条全を至む事ありとあるべし。是ハ欲でかりよりふりず家の治りを思ふ也

○和論語四ふ藤光廣公のいふてよしの事も。万ぶ道の上よりながる者也とあり。此ハまさも皆黄金のうてあよりながる者也とあり。此ハ万事黄金を以て出世する世の中也。黄金ぶなの甚だ不義でも不學でも先生杯とよだまる事ありり。又けがうふ清座鋪杯へも出る事ありり。黄金ぶあくてハ万事叶ぶ出来

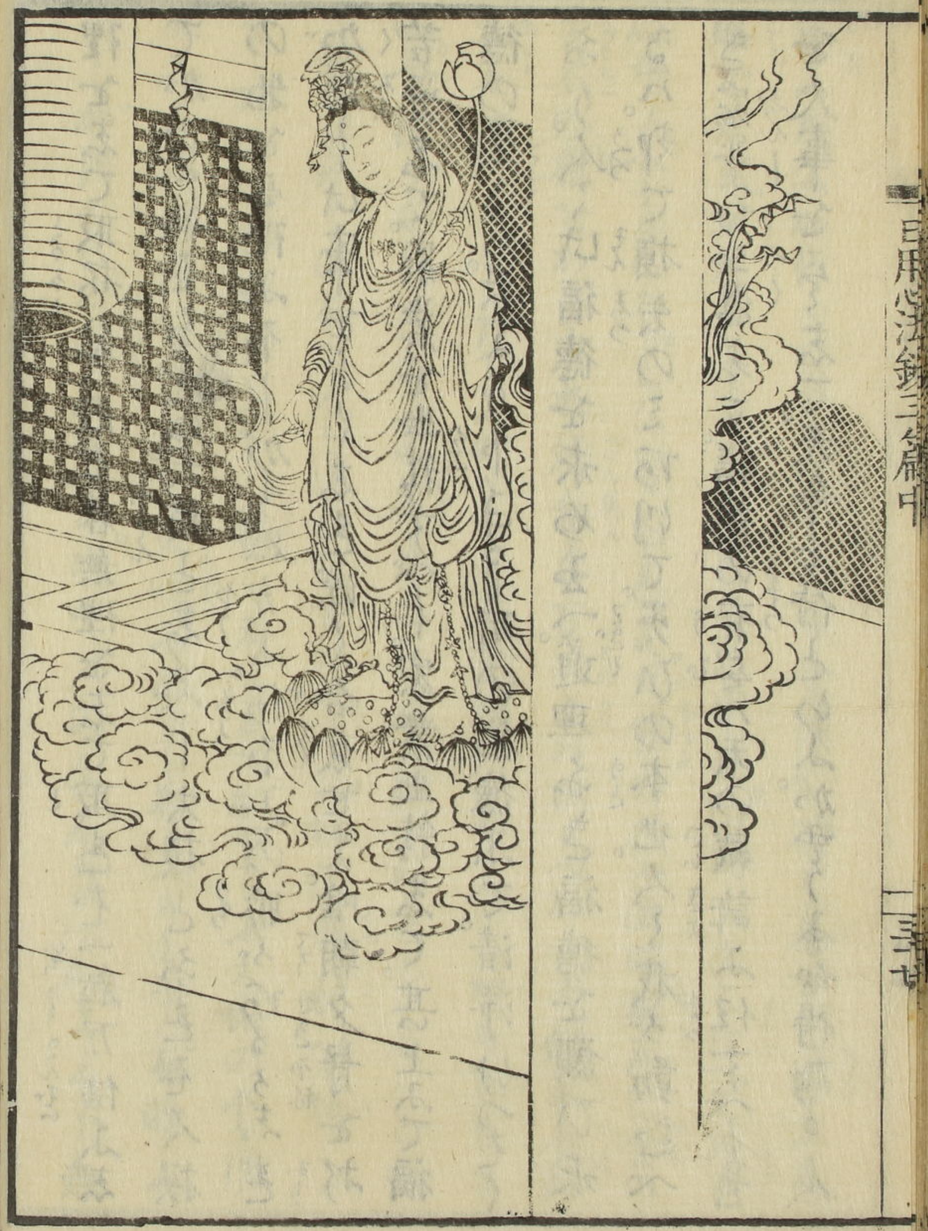
がたし。是ハ近代始りたる事ふりず。昔しよりかくのごとし。支那ふ唐詩選ふも和論語ふも出とり。是ふ人情ふりず道理とまてかくのごとし。是ハ金銀ふそあるりたる徳也。かゝるふ自由自在の出来る金銀ふ。世衆中の人ぶ命よかつてもやしがる也。ふまた甚よい金銀を持人至て吹ふし。是ハふまて甚持へき由名んを知らず唯やしがるぞりふまて。金銀の出来る修行を世ずまてハ。役ふ立ぬとあるべし

釋尊も凡生智淺くまて。福因を修せずまて福景を貪ると作せらをたり。此ハ凡生智恵淺くまて。福徳のある

田ハ植ずおて。福徳むかりやーがる流ふ。福徳ハ来らず。福徳がやーくバ。福徳の来る。因を植べし。種さへ植まへ福徳ハ願ふずおて来るとらのふ事也。たとへ菊の花が咲くで春から苗を植て。吉方ふり又春苗も植ずおて。九月ふハ急度花が咲ふり又春苗も植ずおて。九月ふハ急度花が咲色をふる事ハ出来がてー。けをける人香匂ふ。秋ふ成てうら菊作ふとろへて。秋ふ成てうら菊作ふとろへて菊でかりふ。秋ふ成てうら菊作ふとろへて役ふ立ねとらのふ事也。是かく菊をかりふずー切万事皆かくのごとーふ。又米を取うんと思つバ春種を蒔夏草ぎり耕さ。佗すまむ。秋ハふところを去て米を取也ふる春種も蒔ずふ。夏かうさくもせずおて秋ふふりてから。米を取しがるたやーも得事ふし。是米を取べき種を植ざるふよりてふり。人間ハ智恵浅くおて福徳の来る種ハ植ずおて。福徳斗りやーがる右ふ安しも得る事ふし。何事全て。福徳の出来る種を植べし。全徳の出来る種とらのふ。身をうく治め。家業を出精する事也。全徳の出来る修行さへ。なしふむ。願ふすを全徳の出来る事経ひふし。又たまくハ全徳の出来る道を右りて。楽しておかける人ハきた。出ふ魔がさして。金の生る木の芽を折ふり也。其人のすき好む事を以て。取ふかける。だくふき。諸勝負又ハ女をかけて。

ちぎ
速よ取ふかけるふり。吹くでも。金銀を持て居ると速ふ斗
ごと
略を云て。取んとする。恐ろ愛世の中也。汁時ふことたて取ま
ねそうふすまだ。よい男ふ先大方の人が汁時取まて金の
ろるき　孫
生木の根をかろす也。殘念ふ万汁上ハるべかっず。何卒金の
ろるき
生木を殺ことそだてふやしてい。金銀がふけまを家来とふり。金銀の
る事多し。汁ふ金銀の二ッを持べし。汁ふ勝利を得る
事ハのけてかぞつぐし。穀く考へよ。かそうふ大切の金銀
ふ。人捨の物を受云て多性よやしがるべうらず。多性よ
ふーが汁てハお源ふ申ん。況や人のふんぎをかまうふ。無

理を云て取ハ大罪也。若無理を云て取まむ一粒万倍ふ云
てかつさ孫をふろぬ大損とあるべし。大損とふまを。人捨
の物を無理ふやしがらぬ方ふ。仍やどの勝がるうまき
かたし。汁事をよく云まを。深く合点せよ。唯朝夕肴をお
苦労云て。家業を出精すべし。家業出精云て。甚上ふて福
徳の来るハ。天より下さる〳〵所の福徳ふて。清浄けつむく
ふり。人〳〵汁福徳を求めふ〳〵道理ふき福徳を願ひ求
るハ。却て損矢のを汁て。災ひの本也。人〳〵我が勤むべ
き家業を出精云て。福徳の有多ハ天の裁許ふ任すべし。是
を人事を尽云て。天命を待とらふ。かそうふ心得たる人



やぶいしや 観音がさげへ
びんぼうおんぎをやよる所

ひろバ。天よりつの富を落し。律俊正道ふ勤て。天禄を得て。一生富貴安穏ふらうすべし。是ぞ世ふありがたき君子とゆふべし

又全役な身分相應ふ持てらうさ孫が。存知ようぬ損を。のこし。存じようぬ恥をかき。存知ようぬそしりを受る事ひり。中山觀音娑物語五ふ藪函者觀音ぞさりふ申し。よるやうハ。世ふ貪ふやどかるし。四百四病の類ひより貪ふど雜面者ハふし。とりよ讀の通りふり。私し。風情貪ふ函者ハ平生同じ衣類を着て居ていハ人目悪鋪と思ひ。色くと文覺ふし。お元ハ賭ふと着かへて

ひるけを禄ふ操治先もふいふ。雁彼後の上着ハるるの縮緬ハ損料であろふのとそらまた。又ひのおごる風おやから。貪ふするの。道理ふとそしらまた。無服で西けた。おろそが氣をひふと掃ひ出さまた。徐くひるけが。借金こいを碎す空腹そふふと呼やがまた。早くひるけが可愛やかとうたがらまた。お元ハもいかぐと差扣西また。彼法とおろうまた。さいく見舞へで勉ふし。そふふといふがらまた用事のひる時でかり西けた。得ふ勝ふるやりおやと発ふまた。承時ふ西けた。隣そふふとこふさまた。贈るべき時元ふ大儀ふおがら音信すまで。論ひがまおいとひざけら

まゝ。甚麼ごとゝも忍耐すまで。大柄者と噂が出。謙退卑下すまで。輕薄者といひあさまゝ歩ゝ悪まて居まゝを臆病者と笑ふまゝ。いろ〳〵と内ゝ居まゝで妻子をせめらまゝ。外へ出まゝで他人ゝいやめらまゝ親類縁者へあらぬ事ゝ尾鰭をつけて次第〳〵ゝ云ふらし。他人へいんぎんゝ會釈もうで段〳〵とまざかる。雀角貪ゝふりをしてゐる智者もこまり入て相見つゐ。いろ〳〵ゝ私し風情の者へ猶更彼是と心配仕ゐ。計段推案ゝさるべし。雀角落着き深世みて住座ゐと申上まで。觀音

ゞさ汲取し石てのゝふゝいうふも汲ぐらゝ通りあり。貪婪身ゝ思ひこゝろざる。そゝりを受ゞひこゝろざゝ愁ひ多し。彼金持のする事ゝ行をまてもゝむる者也。略きをおごりおこゝろねとゝゝ尊ゝ。不精者で身持のむさきを笑ふかまことねと執成下里たるゝ下司近きと悦び。猿智恵ゝ發明ゐとゐひ立。万事ゝ氣の角ぬをゝ寛活ふりとゐがゐ。濁上ゐる〻優長とゝゝめゞやし大柄ゐるゝ臆ぶそゐゐ川たと悪ゝ。短恵ゐるゝ勇氣と思ひ。腰抜ゝ堪忍づよいと受ゝ一切の事ゝ何ゝゐろゝゐゐ機が利て居て大切根

の人ふりとゑふし。他人の主君のごとくみ敬ひ来り。親族
の父母のごとくみ尊ミ。あるもまろぬも。皆悪ミ敬ひ奉ること
ひなり。誠ふ観音大士の作ふ間違ふし。人情と右て。金持を
貴む幸。かくのごとし。ふらば人く身をおさめ家業ヒ出
精右て人の貴び敬ふ町の金銀を持べし。是智恵ヒ覚ふ
くあて。智者とほめらるく所の。妙法也又貧ふ人ハ行ヒ右
ても。笑ハるる者也。ふき事ヒ右てふ人が求めぬ者ふり。謎
ふ迫かけて。貧ふ人ヒ笑ふ。○貧ふ人とかけて。仏と解。ミヒ
五合徳利と解。其ハ一升つまらぬとサ○大病人とかけて
仏ととく。ミヒ貧ふ人のよめ入ととく。その心ハ長持ぐるい

○ふミそうろくとかけて。仏ととく。ミヒ貧ふ人の葬礼
ととく。其心ハ跡で法事が出来ぬと是三つふがら貧ふ人を
笑ひたるふぞふり。貧ふ人ハ一生つまらぬふ相違ふし。此
暗能く承知ハ乍て。金銀の一ツヒ持べし。金銀の一ツヒ持
ヒ我身の自由ヒ失ひ。一生楽ミふし。又金銀ヒ
持ほどの人ふらバ。ハまりミろき人ハハるべからず。其奉
ハ次下の文段ふてよくあるべし。

ハまり金銀の事ヒかりり申して。仁義の道ふかけうる
町おつて。いやしけミ中。中ハ以下の人ハ先身上ヒよく持
事ヒあり。其後仁義忠孝の道ふおもむろ右む為し。

孟子疏よいろ〳〵。禮義ハ富豆ふ生て盜賊ハ貧賤
ふ起るとなり。家語ふいろ〳〵。勇窮する時ハ攫つき
鳥窮する時ハ啄く人窮する時ハ詐ると。論語ふい
ろ〳〵小人窮する時ハ宜ふ濫すと漢書ふいろく。
民貧き時ハ姦邪を生ずとなり。晏等の公も。富
貴ふまた。義理ふちり貧賤ふまた。恒の公を失
ひ。惡をも盜をもする者ふりといふ公ふり。士君子
といへた。窮する時ハ改やまりふ〳〵。いろんや小人
ふ於てをや。文選ふいろく。貧賤ふまた妻子軽ん
富貴ふまた。他人重んずとあり晏等の文段を

見ても貧乏ふまた妻子といへども。禮義も教へも施
しがたし。いろんや余人ふ於てをや晏ふよ何ていづ
まの道ふも。身をよく治め家をよく齊へ天命
全根ふ身ふ相應ふふくてハ。何事も治りふ非ずこ
一切の出入奉。けんくち口論。病氣災難婚礼葬式水
雜火難盜難等の奉行ふてもかでも皆全根の咄ところ
んでくる仕舞ふハ。全根を出して治まりを付孫を育
がたし。聖人ごからこ文もいろぬ。愚人ごうろ三文もふく
てもよいといろさぬ。何でもかでも家役村役町役ハ出さ
孫ふからぬ。豆藏でも非人でも其日〳〵のかせぎ高を出さ孫

を家業の出来がよいやら相應よろうす者の擧動
とあるべし。貴人でも下人でも身分相應よく
てわ。一日もくらしがよし。是よよ河て何卒金銀を持ちて
のふ事也。夫た金銀のおくてもよい。おくても隨分と安
心よくらすといふ人が活勝手次第一汁本の活被見ん
な無用。所詮唯一のにぬ人也。死ぬけと智者とわ
合てよき道を通らんと相談するの乙

日用心法錄三編中終

島田
藏書

中六番町 島田